

**令和３年度
長野県森林づくり県民税活用事業
木曽地域の実績**

長野県木曽地域振興局

1 防災・減災のための里山等の整備事業

(1) 里山整備方針作成事業

- ・森林づくり県民税を活用した「防災・減災」及び「住民等の利活用」のための里山の整備を進めるため、航空レーザ測量等の科学的知見や現地調査の結果等を踏まえ、優先的に整備していく箇所を特定、図面化することにより、森林づくり県民税の効果的な活用と取組の見える化を図る。

【木曽地域の実績】

(単位：箇所、千円)

事業内容		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
里山整備方針の作成 (策定済)	箇所数	1	1	4	1	1	1	9
	事業費							

(2) みんなで支える里山整備事業

- ・「防災・減災」の観点から、未整備の里山のうち、里山整備方針に基づき優先的に整備が必要な民有林（県及び市町村有林を除く）の間伐を推進する。
- ・集落や主要なライフライン（道路、線路、電線等）に接する森林において、倒木の恐れのある危険木及び枯損木を伐採する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R 3 年度 事業実績		補助率	補助金額
・間伐（搬出間伐を含む） ・路網整備	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	里山の整備	94.12ha	9/10	25,070
・ライフライン等保全対策	市町村	危険木の伐採	2箇所	9/10	1,320

※ 危険木の伐採については、保全対象の重要性及び倒木が発生した場合の保全対象への影響を勘案して実施箇所を決定するとともに、電力会社等との連携により効率的、効果的な対策に努めることとする。

※ 補助金額の〔 〕は、森林づくり県民税の額（裸書きは国庫補助を含む金額）。

【内訳】

(単位：ha、本、千円)

区分		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
里山の整備	整備面積	7.28	20.19	41.10	25.55			94.12
	補助金額	1,313	5,286	9,055	9,416			25,070
危険木伐採	(箇所数)			(1)		(1)		(2)
	本数			26		19		45
	補助金額			934		386		1,320

「みんなで支える里山整備事業」の間伐の実施状況

上松町大字小川高倉地区

施行前



住居や道路の上部に位置する急傾斜地の里山林の整備です。

防災・減災効果を向上させるため、ヒノキの適正な間伐を行いました。

間伐により林内が明るくなり、下層植生の繁茂と残した木の太りや根張りの向上が期待されます。

併せてテープ巻きでクマの皮剥ぎ被害を防止、災害に強い森林づくりを進めています。

施行後



(3) 道路への倒木防止事業

- ・ 県が管理する道路の区域外(山林)から道路への倒木の恐れがある危険木が多く確認される箇所のうち、防災効果の高い箇所の危険木伐採を集中的に実施する。

該当なし

(4) 県単河畔林整備事業

- ・ 県が管理する一級河川の区域外(民地)の河畔林及び市町村が管理する準用河川区域とその周辺の河畔林のうち、防災効果が高い箇所の整備を推進する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R3年度 事業実績		補助率	事業費及び補助金額
・ 河畔林の整備（除間伐等）	県	県管理河川	5 箇所	－	4,070
	市町村	市町村管理河川	4 箇所	9/10	

【内訳】

(単位：箇所、千円)

区分		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
県	箇所数				1 (笹川)			1
	事業費				2,000			2,000
町 村	箇所数		1 (長根川)				1 (大沢)	2
	補助金		900				1,170	2,070

2 県民協働による里山の整備・利用事業

(1) 里山整備利用地域の認定

認定内容	事業主体	R3年度 事業実績
地域活動、里山整備等の実施地域	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定

【内訳】

(単位：箇所)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
認定地域数	計 画		1	3	1	1	6
	実 績			2	1		3

(2) 里山整備利用地域活動推進事業

- ・地域住民による里山の整備・利活用を促進するため、長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、地域住民による里山整備利用推進協議会の立ち上げ及び里山整備利用地域活動計画の作成等を支援する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R3年度 事業実績	補助率	補助金額
・現地調査 ・地域活動（森林体験活動、薪の生産、山菜・きのこ栽培、野生鳥獣対策、植生保存活動等） ・計画作成 等	里山整備利用推進協議会	宮の越里山整備利用地域：森林環境教育、安全講習など 菅地区里山整備利用地域：広葉樹林の整備	2 地域 10/10	632

※里山整備利用地域の認定前であっても支援対象

「里山整備利用地域活動推進事業」の実施状況

「宮の越里山整備利用地域」の取組（木曽町 日義）



日義中学校(2年生)の森林整備体験(枝打ち・除伐)



日義小学校5・6年生に対する森林環境教育



(3) みんなで支える里山整備事業

- 長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備を促進するとともに、多面的な森林資源の利活用を進めることで、自立的・持続的な森林管理の構築を図る。

(単位：箇所、千円)

事業内容		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
里山の整備	箇所			1				1
	補助金額			297				297

(4) 里山資源利活用推進事業

- 里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援する。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R3年度 事業実績		補助率	補助金額
資機材等の導入（チップパー（ハンマー&ナイフ））	里山整備利用推進協議会	宮の越地区里山整備利用地域：（資機材等の導入）	1 地域	3/4	1,083

※里山整備利用地域の認定前であっても支援対象

「里山資源利活用推進事業」の実施状況

「里山整備利用地域」の取組（木曽町 宮の越地区）



森林整備で発生する枝条等の有効活用のためにチップパーを購入

3 地域で進める里山集約化事業

- 小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、間伐事業実施地の森林所有者の合意形成や、所有者の境界を明確化する取組を支援する。

該当なし

4 地消地産による木の香る暮らしづくり事業

(1) 子どもの居場所木質空間整備事業

- ・モデル性の高い施設において、県産材を活用して行う「子どもの居場所」の木造化・木質化及び調度品・おもちゃの設置に対して支援する。

(単位：千円)

事業内容	町村	施設名	補助金額	備考
調度品・おもちゃの設置	木曽町	役場本庁舎（はぐくみひろば） （床パネル、ままごとセット等）	375	
	木曽町	長野トヨタ自動車（株）木曽店 （キッズスペース）	157	
	南木曽町	読書保育園 （整理棚、おもちゃ等）	375	
計			907	

(2) 木工体験活動支援事業

- ・子供を対象とした地域材を使った木工体験活動の開催を支援する。

(単位：千円)

事業内容	町村	体験内容	補助金額	備考
木工体験活動の開催	上松町	上松中学校5年生を対象に、「木曽ひのき」 を使った家具(椅子)作り体験を実施	375	
	南木曽町	南木曽小学校3年生を対象に地域材を使っ たテーブル・ベンチの製作体験を実施	144	
	木曽町	公募した小学生を対象に地域材を使用した 木工体験教室(テーブル等の製作)を実施	392	
計				

「木工体験活動支援事業」の実施状況

町内の小学生とその保護者を対象に地域材を使った木工体験教室を開催（木曽町）



子どもや若者が木に触れ合うことを通じて、森林の大切さや県産材の利用に理解ある地域づくりを進めます。

(3) 県産材公共サイン整備事業

- ・市町村や民間事業者等が、県産材を利用して観光地等において行う案内標識整備を支援する。
該当なし

(4) 木づかい空間整備事業

- ・オフィス・店舗等の木質化、調度品の設置を支援する。また、多くの県民が利用する県有施設を木質化する。

(単位：箇所、千円)

事業内容		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
木づかい空間整備事業	箇所			1 (合庁講堂)				1
	事業費			1,760				1,760

「木づかい空間整備事業」の実施状況

木曽合同庁舎講堂の内装を木曽ヒノキを使い木質化

施行前



施行後



5 森林病虫害被害枯損木利活用事業

- ・山林に放置され、有効活用されていない森林病虫害被害木を有効活用し、地域が主体となっていく被害木駆除の更なる取組を推進するため、被害木を木質バイオマス発電の燃料（チップ）等に利活用する取組等を支援する。

(単位：箇所、十円)

事業内容		上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
被害木有効活用	箇所	2						2
	補助金額	900						900

6 森林の教育利用の推進

(1) 学校林等利活用促進事業

- ・周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒が森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりに理解を深めるとともに、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林について、森林税により集中的に整備する。

該当なし

(2) 自然保育活動フィールド等整備事業

- ・豊かな森林資源、自然環境を活用した「信州やまほいく」認定園の活動フィールドの整備等を行うことにより、森林を活用した保育の安全性確保及び教育環境の充実を図ります。

該当なし

7 観光地における景観形成のための森林等の整備

(1) 観光地等魅力向上森林景観整備事業

- ・豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図る。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R3年度 事業実績		補助率	補助金額
・景観整備 ・ビューポイントの樹木の伐採	町村	地域の景観に合致した間伐等	2件	9/10	2,574

【内訳】

(単位：件、千円)

区分	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
件数		1		1			2
補助金額		1,674		900			2,574

8 森林セラピー推進支援事業(施設整備)

- 本県の森林セラピーの利用を促進するとともに、関連する産業（観光、健康、環境、産業）との連携を強化し、地域資源として積極的に活用していくため、セラピー基地等の魅力向上を図るとともに、県内外へ積極的にPRを行い、利用者の増加、満足度の向上を図る。

(単位：千円)

セラピー基地	事業内容	補助金額	備考
赤沢自然休養林	歩道木橋の修繕	1,500	

赤沢自然休養林の歩道木橋修繕の実施状況

老朽化した遊歩道の木橋の改修を実施

施行前



施行後



利用者の安全を確保し、安心して散策できるようにすることで森林セラピーの利用促進を図ります。

9 森林づくり推進支援金

- 森林づくり指針に掲げる方針を踏まえつつ、森林に関する各地域の様々な課題解決のための国庫補助等の既存施策の対象とならない市町村の取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行う。

(単位：千円)

事業内容	事業主体	R3年度 事業実績		補助率	支援金額
市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数	6町村	定額	5,418

【内訳】

(単位：千円)

支援金	上松町	南木曽町	木曽町	木祖村	王滝村	大桑村	計
実施内容	(緩衝帯整備)	(病虫害対策)	(緩衝帯整備)	(緩衝帯整備)	(緩衝帯整備)	(森林公園整備)	
配分額	683	752	2,020	701	591	671	5,418

森林づくり推進支援金の実施状況

事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯整備を行うことで、野生鳥獣の田畑や住家への接近を防ぎ、被害等の抑制が期待できる。

(2) 継続性

整備後の再繁茂については土地所有者に管理を依頼し、緩衝帯整備の効果を持続させる。

(3) 普及性

住家や道路に近い場所が整備されることで人の目に触れ易く、野生鳥獣の通り道となる場所をなくすことで住民の不安を取り除く効果が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

住家や農地が山林と近く、クマやサル等の出没が多かったことから、緩衝帯整備を実施し見通しを良くしたことにより、鳥獣の隠れ場所がなくなることで出没の抑制や早期発見が期待できる。

(2) 課題

土地所有者等に継続的な管理を依頼することにより効果の維持を図っていくが、高齢化等により負担が大きくなっている。

また、周辺にも整備の必要な山林が多く残っている。

(3) 今後の取組方向

☒事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

鳥獣被害の防除効果が期待できることから、地域住民からの情報や要望により効果の高い箇所を選定し継続していく。

☐事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第15号)

令和3年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南木曾町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくりに関する事業	森林病害虫対策事業
事業費	723,131円 (うち支援金: 602,000円)	

事業目的

(別記様式第1号附表の「説明書本文」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当初は、工立地区にてマツノザイセンチュウによる森林病害虫被害が発生していたが、吾妻広瀬地区を除く町内全域に被害が年々拡大しており、町内の被害拡大を抑制する事が困難となってきた。

これ以上北上させない為にも国の補助事業実施地域を大桑村との町村境付近の被害木のみとしていることから、その他の地域で発生した被害木処理を町単にて実施しているが、財政負担が増える一方で予算関係もあり処理できず、枯損木となり道、住宅等へ倒木する危険性がある。

(2) 本事業の目的

森林病害虫被害で倒木の恐れがある危険木を伐採して人的被害防止と病害虫被害の拡大防止を図る。

事業内容

(別添様式第1号別添の「取組事業実績」から転記)

(1) 実施場所 南木曾町流書(岩倉・大白・川向)地区

(2) 対象者 流書(岩倉・大自・川向)地区住民

(3) 実施方法

○流書(岩倉・大自)地区

被害木を伐採し直ちに枝払い、玉切りをして1冊ごとに集積を行う。

集積したものに牛分解性シートを被覆し、薬剤を散布して14日間以上くみ燻を行う。

○流書(大自・川向)地区

被害木を伐採し直ちに枝払い、玉切りをして1冊ごとに集積を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和3～7年度)

125冊(年約25冊)

流書(岩倉・大自・川向)地区 24.86冊

②令和3年度実績

森林被害山被害木処理 24.86冊



(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南木曾町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくりに関する事業	森林病虫害対策事業に対する付帯事業
事業費 193,315 円 (うち支援金: 145,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当初は、田立地区にてマツノザイセンチュウによる森林病虫害被害が発生し年々被害が拡大しており、吾妻広瀬地区を除く町内全域に被害が拡大しており、町内の被害拡大を抑制する事が困難となってきた。

これ以上北上させない為にも国の補助事業駆除地域を大桑村との町村境付近の被害木のみとしていることから、その他の地域で発生した被害木処理を町単にて実施しているが、財政負担は増える一方で予算関係もあり処理できず、枯損木となり道、住宅等へ倒木する危険性がある。

(2) 本事業の目的

森林病虫害被害で倒木の恐れがある危険木伐採作業の付帯工（支障木処理、クレーン車等）嵩上げにより効率的な作業をすることで病虫害被害の拡大防止を図る。

事業内容

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 南木曾町読書(天白・神戸)地区

(2) 対象者 読書(天白・神戸)地区住民

(3) 実施方法 急傾斜地における被害木処理について、被害木を吊って伐採して処理を行う。
また、構造物近くにある被害木について、被害木を倒す方向に支障木があるため、支障木の伐採を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和2～6年度) 110 m³(年約22 m³)

②令和2年度実績

森林病虫害被害木処理 2.91 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

被害木が倒れる前に処理できるため、人的被害防止につながる。また、北部地域への被害拡大防止に繋がる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

被害木を伐採するため、事業効果は見込まれる。

(3) 普及性

読書(天白・神戸)地区住民をはじめ観光客に対して被害対策の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

伐倒・集積が困難な場所での作業時に安全に作業することができ、付近住民への影響も最小限とすることができた。

作業時に弱っている被害木からの転落を事前に防ぐことができた。

(2) 課題

町内において処理時にクレーン車を用いなければ処理できない箇所や支障木処理が必要な箇所がまだある為、継続して処置を実施していきたい。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木曽町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	緩衝帯整備事業
事業費 2,288,000 円 (うち支援金: 2,075,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当町は総面積の 90%以上を森林(43,011ha)が占める森林町であり、遊休地の林地化が進み町内各地でニホンザルやイノシシ等による田畑や住居周辺での被害や目撃が増加し、住民生活に影響が出ている。また、森林所有者の高齢化が進んでおり、自ら森林を効率的かつ適正に管理することが困難になっている。

(2) 本事業の目的

((1)の課題への対応方向について記載)

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき、今年度は日義、開田高原、三岳地区において 3.26ha を整備する。

事業内容

(1) 実施場所

木曽町日義中川地区

木曽町開田高原末川小野原地区

木曽町三岳日向地区

(2) 対象者

日義中川地区住民、開田高原末川小野原地区住民、
三岳日向地区住民

(3) 実施方法

刈り払い機等を用いて人力により藪払い等を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和 2 年度～令和 6 年度)

緩衝帯整備 11.0ha

②令和 2 年度実績

緩衝帯整備 3.26ha

木曾町日義中川地区

着工前



竣工



木曾町開田高原小野原地区

着工前



竣工



木曾町三岳日向地区

着工前



竣工



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

継続的に緩衝帯整備を実施することで、農林作物への被害減少効果は見込まれる。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

事業対象地区住民をはじめ、観光客に対し被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

見通しがよくなり、鳥獣発生及び農作物被害の減少が期待される。また、地域住民の追い払い活動にも効果的だと思われる。

(2) 課題

地域住民による整備後の維持管理を定期的の実施してもらいたい、いずれも高齢化地域のため困難と思われる。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

毎年、緩衝帯整備の地区要望があるため、定期的に事業を実施したい。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

木祖村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	野生鳥獣対策緩衝帯整備事業
事業費 1,793,000 円 (うち支援金: 692,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と農地に挟まれた村道奥木曽 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な地域である。また、諸木原地区では、有害獣による畑への被害や住居周辺でのイノシシ等による掘り起こし被害が起きている。

(2) 本事業の目的

加害獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 カ年計画に基づき、今年度は諸木原地区において 3.885ha を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 木祖村大字小木曽 諸木原地区

(2) 対象者 諸木原地区の住民及び耕作者

(3) 実施方法 刈払機を用いた低木の除去を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30 年度～令和 4 年度)

緩衝帯整備 35ha

②令和 2 年度実績

緩衝帯整備 3.885ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

加害獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

平成24年度から緩衝帯整備に着手し、効果検証を継続しながら対策を進めており、継続性は見込まれる。

(3) 普及性

地域住民に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

この地区は山からすぐの距離に集落と農地が存在し、農業被害や鳥獣被害の多い地区であった。近隣でサル・イノシシの出没が多く、地域住民や農家が日常生活に不安のある日々を過ごしていた。今回緩衝帯整備を実施したことにより、野生鳥獣が身を隠せなくなり集落・農地周辺への出没を抑制し、人身被害や農業被害を未然に防ぎ、減らすことが期待できる。

(2) 課題

数年のうちに事業実施前の姿に戻ってしまうことが懸念されるため、地域住民による継続的な維持整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

鳥獣による被害に対し防除効果が高く見込まれるため今後も事業を継続実施していく。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	王滝村
----------	-----

No.	事業項目	事業名
	森林を支える豊かな地域づくりに関する事業	令和 2 年度 緩衝帯整備事業
事業費 1,089,000 円 (うち支援金: 592,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当該地域は山林と御岳湖に挟まれた村道 1 号線沿いであり広域的な森林施業は困難であり小規模ではあるが景観整備や有害獣の対策が必要な林地である。

(2) 本事業の目的

加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで農林業被害の軽減を図り、村内緩衝帯整備 5 ヶ年計画に基づき今年度は田島地区において 1.43ha、小川地区において 1.29ha を整備する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

王滝村田島地区、小川地区

(2) 対象者

田島地区、小川地区住民

(3) 実施方法

刈払機等を用いて人力により、笹や支障となる低木の除去を行う

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～令和 4 年度)

緩衝帯整備 20ha

②令和 2 年度実績

緩衝帯整備 2.72ha

■田島地区

< 施行前 >



< 施工後 >



< 施行前 >



< 施工後 >



■小川地区

< 施行前 >



< 施工後 >



< 施行前 >



< 施工後 >



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

加害鳥獣が出没しにくい環境をつくることで被害の軽減と森林整備に対する森林所有者の意識向上に繋がる。

(2) 継続性

定期的な維持管理を行う予定であり、効果の継続性は見込まれる。

(3) 普及性

田島地区、小川地区住民をはじめ観光客に対して被害対策となる緩衝帯整備の必要性を周知できると考えられる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

里山整備を行った結果、農地周辺の有害獣出没が減少した。

隣接する村道1号線は村内外の車両も多く、見通しも良くなり環境整備の観点からも評価されているとみられる。

また、整備地付近には学校通学路もあり、その安全性も確保された。

(2) 課題

今後さらに森林所有者の高齢化が進み手入れが行きとどかない森林が増加する傾向にあることから里山整備と合わせ面的な整備が必要となる。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も事業を継続し森林所有者や農業経営者に里山整備と併せて広くアピールし有害獣による被害軽減や出没しにくい環境づくりを進めていきたい。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村
名

大桑村

No.	事業項目	事業名
1	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	令和 2 年度森林づくり推進支援金事業（森林公園遊歩道周辺林整備）
事業費 715,000 円（うち支援金：660,000 円）		

事業目的

（別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記）

（1）地域の森林・林業の現状と課題

のぞきど森林公園内には遊歩道が整備されているが、遊歩道沿いの林内に未生の広葉樹が多くあり、林内が暗く見通しも悪い。獣が散策者に近づいてしまう可能性も思慮される状況。

（2）本事業の目的

林床整理伐を実施。遊歩道から見える林内の見通しを良くし、獣が散策者に近づく可能性を減らすとともに、散策者がさわやかな気持ちで歩ける環境づくりを行う。

事業内容

（別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記）

（1）実施場所 大桑村大字長野

（2）対象者 地権者 1 名
住民及び公園利用者 4,000 人

（3）実施方法

林床整理伐及び遊歩道修繕

（4）事業目標及び当年度事業量

①全体計画

林床整理伐 1.92ha

②令和 2 年度実績

林床整理伐 0.40ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

遊歩道の周辺の見通しがよくなり、又丸太階段を設置したことで、歩きやすくなった。

(2) 継続性

未生の立木の多くがなくなったことで、今後の維持管理(笹の下刈り等)に入りやすい環境が整った。

(3) 普及性

のぞきど森林公園の来園者が気付きづらい状態になっていた遊歩道が見えるようになったことで、散策への利用者の増加が見込まれる。

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

見通しが良くなり、林内の暗さによる圧迫感が解消された。又、林内が明るいことから、獣が不用意に近づく危険性も減少すると考えられる。

(2) 課題

今後の維持をどのように実施していくのか。現状残しているツツジをどの程度整備するのが課題。

(3) 今後の取組方向

☒ 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

来年度も同事業規模での林床整理伐及び遊歩道の傾斜地等の整備を行う。

☐ 事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

☐ 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(1) みんなで支える森林づくり推進事業

- (単位：千円)

(単位：千円)

(単位：千円)

(単位：千円)

広報活動の実施状況



情報誌「Kisojin」vol.30(R4年2月末発行)
に森林税PR記事を掲載



緩衝帯整備の支障木等伐採地に「のぼり旗」の設置(王滝村)

森林税を活用した事業地にのぼりを掲示し、広く県民の皆様に見ていただきます。

地域会議の開催状況



会議状況



宮の越里山整備利用地域の取組状況を調査(木曽町日義)

県民税活用事業の取組の評価・検証や取組情報を発信し広く地域住民に周知します。

(2) 森林の里親促進事業

- ・ 里山や山村集落へ県が仲立ちとなり企業等の社会貢献活動や福利厚生活動を誘導し、森林整備と交流を通じた地域活性化を図る。

(単位：件)

事業内容	事業主体	R3年度 事業実績	備考
・ 新規契約のための企業の仲介 ・ 契約企業のフォローアップ	県	新規契約なし	

【内訳】

区分	里子	里親企業等	里親による支援内容	備考
実施状況	王滝村	愛知製鋼（株）	・ 森林整備等の支援金20万円/年 ・ 契約地の除伐等、社員等による森林整備体験を実施	

「森林の里親促進事業」の実施状況



里親企業が地域の森林整備を実施(王滝村)